



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

あったかウェルねっとニュース 第8号

2007年3月31日発行

ホームページ <http://www.geocities.jp/attaka17/>

平成18年度を振り返ってみると、昨秋の「日本福祉教育・ボランティア学習学会埼玉大会」や、2年目となった「学民協働プロジェクト」に併せて、様々な「研修会」等も無事に終わり、彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワークにとって、実り多い一年となりました。

結成7年目を迎えるネットワークですが、これまでの推進員活動での学びや実践を、今後活かしていきましょう。

報告その1

2006年度日本福祉教育・ボランティア学習学会「埼玉大会」

～人と人を結び絆を紡ぐ新しい社会観づくりをめざして～

シンポジウム・課題別研究・口頭発表とポスター発表による自由研究など、埼玉大会は盛会だった。



職員、福祉現場で働いている人など多岐にわたる方々との出会いがありました。

あったかウェルねっとは、両日をとおして、展示ギャラリーのブースにて「ねっと設立から6年間の活動」をアピールしました。また、第1日目は、シンポジウムに続く課題別研究で推進員の鹿沼さんがパネラーとして参加。2日目の自由研究口頭発表では、社協の牧野・大橋さんや坂本・須田・横田・松嶋・尾崎さんらも発表しました。

(埼玉大会の冊子がありますので、関心のある方は、第2土曜日午後の世話人会へ。)

埼玉方式に確かな反響が

(第2期推進員・松嶋)

私は横田さんと尾崎さんの3人で「官・学・民の協働実践における新たな学習プログラムの研究」を発表しました。内容は、昨年度から深谷市立南中学校と一緒に取り組んでいるプロジェクトですが、この実践は埼玉方式といわれ、全国各地に普及しつつあるということです。発表が終わってからも県内や他県の先生たちから、うちでもやりたいので詳しく教えてほしいとの問い合わせが数件ありました。

「ともに生きる」を实践

(第2期推進員・木野)

制度はどんどん変わり、福祉に関わる多くの人々がそれにあわせて日々学習しているのに、当事者はいつも受身で待っているだけの人が大半ではないでしょうか。「ともに生きる」には、ともに学び、ともに活動していかなければならないと思っていたところ、この大会で、埼玉県視覚障害者福祉協

「あったかウェルねっと」が共催団体として実行委員会にも参加した標記「埼玉大会」は東京国際大学を会場に、11月25～26日の2日間にわたって開催されました。

あったかウェルねっと支援者の原田正樹先生、佐藤陽先生、松本すみ子先生、中島修先生、そして、多数の推進員を含め、参加者は全国から397名。大学の教員だけでなく、障害当事者やボランティア、社協

議会の参加協力を得て県内の有資格者15名により、2日間にわたりマッサージを提供することができました。

そして、91名もの方にマッサージを体験していただき、リラックスできたとの感謝の言葉をたくさん頂きました。

今回の埼玉大会に、私たち視覚障害者も「地域でともに生きる」一人として参加でき、達成感でいっぱいです。

報告その2

平成18年度も無事終了
学民ジョイントプロジェクト

平成17年度から続いた深谷南中学校1年生の総合的な学習の時間を利用したこの協働実践プロジェクトも、18年度は深谷市社会福祉協議会や地域の方々のご協力をいただき、昨年の12月を以って2年間の協働実践事業が終わりました。

現在、子どもたちの学力低下が叫ばれ、総合的な学習の時間の見直しが話題になっていますが、私たちあったかウェルねっとは地域の方々や先生方と協力し合い、生徒たちと「地域で共に生きること」「今、自分にできること」など、「あたたかくふれあい」ながら、貴重で有意義な経験ができました。

そして、生徒たちも大人たちも共に今後に向けての学びとなりました。

推進員として、ともに学ぶなかで...

(第4期推進員・権藤)

私は障害者スポーツを調べる生徒と一緒に勉強しました。子どもたちの集中力はすばらしく、10年後の彼らが障害者の人たちと一緒にスポーツを楽しんでいる姿が目に見えました。1つのスポーツを選ぶのではなく、スポーツで使うボールそのものを取り上げたのは、とてもユニークでした。

(第1期推進員・稲葉)

「10年後にきちんとした大人になりたい」「障害を持っている人も人生を楽し

んでいることがわかった」など、生徒たちの発表が印象に残りました。高齢の人、障害を持っている人、ボランティアをしている人の話を聞いたり、体験学習で触れ合ったりすることによって、生徒は自分の中で少しずつ変わってきたのではないのでしょうか。

(第5期推進員・吉田)

授業がある度に、深谷南中に通いました。自分の障害をなんとか受け入れようという時期でしたので不安でしたが、2年間関わらせていただいてよかったと思っています。

私も、生徒たちや先生方と一緒にたくさんのことを学ぶことができました。このプロジェクトのおかげで自信が付き、社会参加もさせていただけるようになりました。

報告その3

平成18年度
福祉教育・ボランティア学習推進員
フォローアップ研修



彩の国すこやかプラザ
研修室にて

伝えたいことが伝えられない...
さて、コミュニケーションの方法は？

協働実践！

支えあう手と手
は...？？



今年度のフォローアップ研修は3日間にわたって行われました。うち2日は県社協主催でしたが、3日目の2月6日は、あったかウェルねっととの共催事業で、この日のテーマは「知的障害の理解」でした。

はじめに、障害者の親であり、地域で社会福祉法人を運営している山下佳子さん（川口市）に「知的障害者のおかれている現状と福祉教育との関わり」について話していただきました。

その後、三芳町の知的障害者の親のサークル「アップルパイ」による、知的障害者の疑似体験がおこなわれました。

親御さんたちの「この子たちを理解してほしい」という気持ちがストレートに伝わってきて、とても興味深いものでした。

報告その4

平成18年度
高等学校教員初任者研修

12月6日、県総合教育センターにて、平成18年度高等学校初任者研修「福祉教育の意義と進め方」があり、あったかウェルねっとの永田さん、松嶋さん、権藤さん、角田さん、郷さん、木野さん、吉田さんによる「講話」「視覚障害者介助体験」を通して、「共に生きる豊かな福祉観」や「福祉教育と教科との関連」など、80名の先生方と学びあいました。

~~~~~

事務局からのお知らせ☆☆…

19年度総会・学習会の日程が決まりました

総会&学習会のお知らせ

開催日 平成19年5月13日(日)

場所 彩の国すこやかプラザ4階

時間 総会 10:00~11:00

情報交換&昼食 11:20~13:00

研修会 13:00~16:00

\* 内容「地域福祉と福祉教育」(仮称)

助言者：原田正樹氏

「今、それぞれの立場で、大きく時代の変化を感じている。」「その中で『地域福祉と福

祉教育』が、とても重要になっていることを実感している。」等の声が多く届いています。そこで、世話人会では、今後の「あったかウェルねっと」や地域での活動に於いても「地域福祉」の視点を学習&研究することが重要と考えます。

その「きっかけ」となる研修を原田正樹先生にお願いできましたので、5月13日(日)は大勢の皆さんのご参加をお願いします。

- \* 参加費は無料
- \* 軽食と飲物を用意します。
- \* 「ねっと年会費」(1000円)を集金

お早めに「総会出欠」を下記ねっと事務局宛に、ご連絡をお願いします。

e-mail : y-yae@xf7.so-net.ne.jp

fax : 049 - 281 - 3161

~~~~~

世話人会開催のお知らせ

今年もあったかウェルねっと世話人会を、6月の第2土曜日午後1:00から、毎月行います。

「ねっと世話人会」6月の予定

日時 平成19年6月9日(土)

午後1:00~4:00

場所 彩の国すこやかプラザ2階

県社協ボランティアセンター作業室

内容 参加者より一言

県社協より

19年度の事業内容について

ねっと会員は、誰でもいつでも「世話人会」に、参加できます。出席できる方は、事務局宛、又は、県社協まで、事前にご連絡をお願いします。

ねっと会計からの
★★お知らせとお願い!★★

会費納入先のお知らせ

ねっと会費(年1000円)未納の方は、お手数ですが、次頁の振込先まで納入をお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店・普通預金
 口座番号：5015782
 名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク
 問い合わせ先：会計稲葉 TEL&FAX：048-837-6913

県社協からの情報★★★

教育再生会議第一次報告より

(asahi.com 2007年01月24日16時20分)
 政府の教育再生会議は平成19年1月24日、「社会総がかりで教育再生を～公教育再生への第一歩～」と題する第一次報告をまとめて安部首相へ提出しました。

以下、特に注目されている点

1 ゆとり教育を見直し、学力を向上させる

補習など土曜スクールを実施、習熟度別指導の拡充、学校選択制の導入

2 学校を再生し、安心して学べる規範ある教室にする

校則に反社会的行為の禁止を明確化、いじめている子どもや、暴力を振るう子どもには厳しく対処し出席停止制度の活用・立ち直りも支援

3 全ての子どもに規範を教え、社会人としての基本を徹底する

道徳の時間の確保と充実、高校での奉仕活動の必修化、体験活動の充実など

4 社会総がかりで子どもの教育にあたる

食育の推進、学校を開放し地域全体で子どもを育てる、放課後子どもプラン

子どもの学力の低下、いじめや自殺の増加など教育現場では多くの問題が発生しています。それを受けて今回の報告が出されました。

放課後子どもプラン(子どもと自治体、ボランティア、企業など多様なプロジェクトを実施)、高校の奉仕活動の必修化などが、学校での福祉教育活動に少なからず影響があると思いますので、これからの動向に要注目です。

18年度フォローアップ研修報告

研修の1・2日目は東京国際大学人間社会学部専任講師 中島 修 氏が講師をされました。

1日目:

午前中は、他地域での実践事例を踏まえ「地域の共生文化を大事にしながらの福祉教育実践」、「双方向による学びあいの大切さ」などについて学びました。午後は、飯能市原市場地区社協 大野康 氏に歯科医師の立場から「口から始める地域づくり」、神川町社協 高田 和也 氏に「地域における推進員の役割」として各関係機関にいる神川町の推進員の協働実践についての報告、また、個々の推進員活動の振り返りも行い、情報共有を行いながら、地域で推進員が孤立しないようにネットワーク作りの必要性などさまざまな意見交換がありました。

2日目:

1日目の内容を踏まえてワークショップを行いました。高齢者事例から地域課題や社会資源を探し出し、問題解決のためのプログラム作成を行うことで、今後、推進員が地域で活動していくための視点や取り組み課題について学ぶことができました。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉) Well Being(幸福)のWell(大切にという意味)です。私たちのネット愛称には、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたいとの願いが込められています。

ホームページ <http://www.geocities.jp/attaka17/>

編集後記

早いもので、18年度が終わろうとしています。毎月の世話人会の度に、他市の推進員情報を交換したり、さまざまな活動のあり方を学びあいました。

新年度も協力し合い、更にネットワークの輪を広げていきたいと思ひます。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
 (愛称：あったかウェルねっと)
 編集：あったかウェルねっと世話人会(情報担当)
 連絡先：埼玉県社会福祉協議会 埼玉県ボランティア市民活動センター
 (TEL：048-822-1435 FAX：048-822-1449)
 担当：石田みち子(ishida@fukushi-saitama.or.jp)
 高木義昭(takagi@fukushi-saitama.or.jp)